


[学生の夢実現プロジェクト]

大崎上島発・呉お祭り再興プロジェクト 結果報告資料

広島大学：片桐萌絵・倉松駿・堀川悠太・松本健斗
指導教員：長田浩彰先生



① 中野八幡神社例大祭（大崎上島町）の活性化

大崎上島 中野八幡神社例大祭

お祭り屋台をやってみよう！

中高生向けお祭り屋台出店イベント

事前に全3回の作戦会議を開催し、

- どんな屋台にする？
- どうすればお祭りをもっと盛り上げられる？

といったテーマで議論しながら計画。

お祭り当日は、自分たちで作った屋台を運営し、地域の方々や来場者に笑顔を届けるとともに、準備から片付けまでチームで協力。

■ 概要

開催日時 9月28日（日） 9:00～18:00

開催場所 大崎上島町中野八幡神社

対象 中高生・大学生

実施内容 秋祭りでの屋台出店

事前講義 郷土史・地方創生・金融・広報

主催 とらでいっしゅ株式会社

共催 株式会社スターベルズ

開催目的と背景

【メイン目的】

- ・ 中高生がお祭りを通して地域の人々と交流し、大崎上島への愛着を育む。

【サブ目的】

- ・ 地域住民が「若い子たちがお祭りに関わってくれる」という期待感を抱き、未来の担い手への道を拓く。
- ・ 地域ニーズに合致した屋台の企画・運営を通じて、参加者や来場者の質的な価値を創出する。
- ・ お祭りの楽しさを実感し、翌年度以降の担い手候補となるきっかけを創出する。

開催目的

1

郷土愛の醸成
実践的な学び

2

お祭りの
活性化

3

地域住民の
満足度向上

4

担い手候補の
増加

参加者・スタッフ（関わった学生数）

【合計数】

18人

【中学生】

- ・ 2名（県立広島叡智学園中学校）

【高校生】

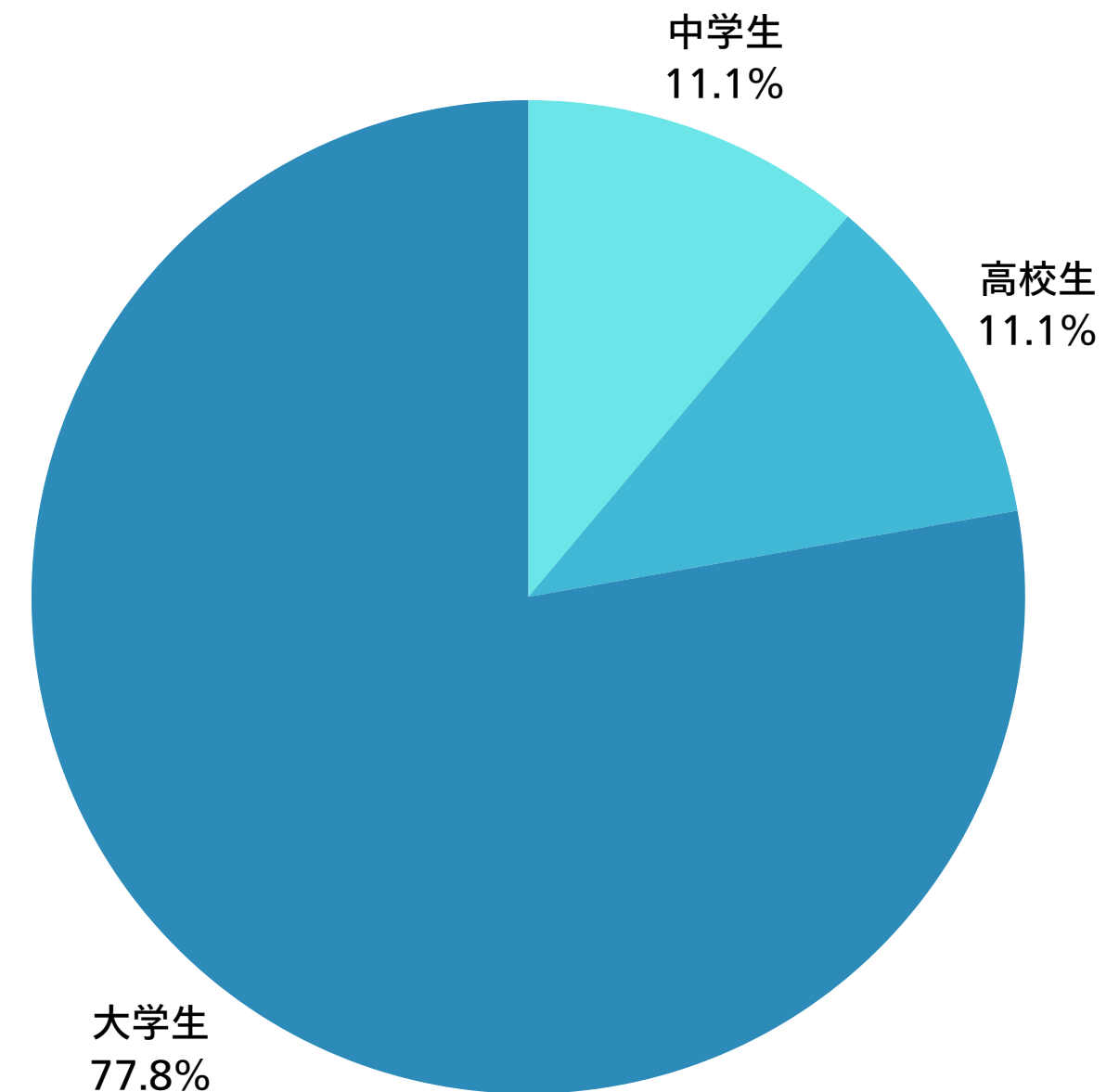
- ・ 2名（武田高校・県立東高校）

【大学生】

- ・ 8名（広島大・広島文教大・福山市立大・環太平洋大）

【スタッフ】

- ・ 6名（広島大学）



実施内容と様子：①フィールドワーク研修

9月6日（日） 13:00～18:00

時間帯	内容
13:00～	大西港（大崎上島町）集合
14:15～	宮司さん講義
15:00～	大嶋憲人さん講演
16:00～	グループワーク
18:00	研修終了
18:05～	フェリーで帰宅



実施内容と様子：②事前授業（オンライン）

9月23日(火) 19:00-21:00（録画配信あり）

時間帯	内容
19:00～	衛生・安全管理講習
19:30～	商品決定・原価計算方法
20:00～	販売戦略・PR
20:30～	グループワーク
21:00	事前授業終了

ビジネスの仕組み

売上高・・・お客さんからもらったお金の合計

↓ 一売上原価・・・商品を作るために直接かかった材料費

粗利益

↓ 一販売費一般管理費・・・お店を運営するために必要なお金

営業利益・・・「本当の稼ぐ力」

↓ 一営業外損益・特別損失・税金

純利益・・・本当の「儲け」

屋台出店の戦略

①顧客分析

- ・どんな人がターゲット？
どんな人なら、商品買ってくれそう？
どんなニーズがありそう？
 - － ご飯が食べたい
 - － 小腹を満たしたい

デザインの設計図をつくってみよう！

◎誰に届けたい？

→子ども？学生？おとな？

◎何を伝えたい？

→美味しさ？珍しさ？安さ？

◎どんな情報が必要か？

→商品？値段？味？

実施内容と様子：③中野八幡神社例大祭当日

9月28日(日) 10:00-19:00

時間帯	内容
10:00～	大西港集合
10:30～	開始挨拶・流れの確認
10:40～	屋台設営など準備開始
13:00～	屋台出店開始
16:00～	屋台終了・片づけ
17:30～	終了挨拶
18:05	フェリーで帰宅



当日の様子



実施内容と様子：④事後研修（オンライン）

10月14日(火) 19:00-20:00（録画配信あり）

時間帯	内容
19:00～	収支合計発表
19:10～	本企画の背景・目的振り返り
19:30～	感想合戦
20:00	まとめ

※その他

- ・グループごとにオンラインで平均3回作戦会議実施
- ・運営メンバーは計4回事前訪問

収支合計			
	グループ1	グループ2	グループ3
売上	22,250円	16,800円	26,054円
費用	25,480円	20,436円	34,194円
原材料費	12,476円	8,298円	21,091円
消耗品費	13,004円	12,138円	13,103円
利益	-3,230円	-3,636円	-8,144円



来場者データ

[来場者数]

500 人超

小学生から大人まで、大崎上島町内の住民が屋台出店に訪れました。

例年はお祭り担い手の参加のみで30名ほどの来場から、屋台を目当てに神社周辺が活性化しました。

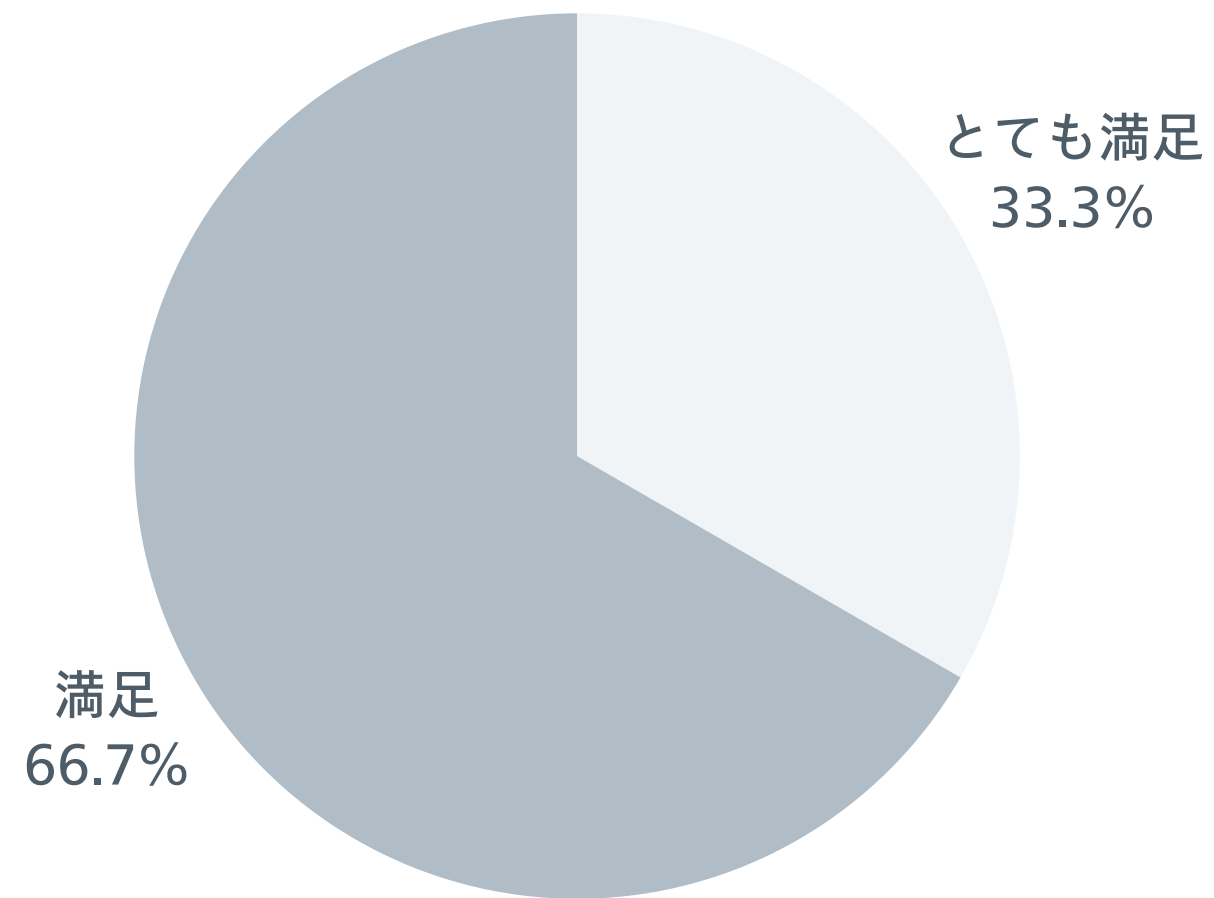
[前年度来場者との比較]

17 倍

お祭り関係者30名→地域住民500名超

アンケート結果

[参加者の満足度]



■ 詳細アンケート

参加しようとおもったきっかけ

面白そうだったから：100%

また参加したいと思いますか？

有料でも参加する：33.3%

無料なら参加する：33.3%、どちらでもない：33.3%

感想など

- ・幅広い世代の人と関わることができた
- ・分からないが故に新しいことに出会える喜び
- ・短期間でひとつの出店ができた達成感があった
- ・映像で見ていた事が目の前で行われていることに感動した

イベントの収支

[収入]

項目	金額
屋台出店売上げ	65,104
合計	65,104

[支出]

項目	金額	項目	金額
参加者交通費	96,770	食糧品費	29,599
設営・備品費	133,277	菓子折り	3,300
講師謝金・委託費	317,500		
広報宣伝費	8,421		
施設利用料	2,180		
Tシャツ作成費	78,408	合計	669,455

成果と今後の課題

成果

- 想定を上回る来場者数を記録
- 参加者の100%が「満足」以上と回答
- 世代・地域を越えた出会いを創出
- お祭りの活性化を実現・地域住民の意識改革
- オンライン導入により運営が円滑に実施できた

今後の 課題

- 事業の持続可能性の具体化
→各学校と連携（探究活動）、自治体と連携など
- 学生の参加促進（テスト週間・学園祭を避ける）
- お祭りの担い手への導線づくり
- アンケート回収率の向上とデータ分析の強化

今後の展望

01

開催規模 の拡大

より多くの学校・団体に参加を呼びかけ、参加者同士の多様な交流を促進します。

02


マネタイズ

企業スポンサーの募集や、自治体・学校などとの連携を深め、教育的枠組みの中での実施を目指します。

03

地域連携 の強化

お祭りの担い手としての参加や、継続して地域に関わる学生の増加を目指します。



② 呉市内における他お祭りの調査・分析
(再興可能性と広域展開モデルの構築)

呉お祭りグッズ作成

阿賀町お漕船モチーフ紙袋

宮島管絃祭 阿賀町お漕船掛け声IP化

「ヤットコセ～ヨ～イヤナ、コレハイセ、アレハイセ」の掛け声をIP化し、デザインに落とし込んだ紙袋の作成。

お祭りの静（瀬戸内海のナギ・お祭りのケ）と動（掛け声・太鼓・お祭りのハレ）と、観光客の静（切なさ・日常と非日常の接続点）と動（旅行先のワクワク感）を対比。



左：デザイナーさんの作品
右：AIによるイメージ画像



開催目的と背景

【背景】

- ・ お祭りは非日常のもの、特定の場所/特定の人のためのものと捉えられがちであり、古臭さや格式の高さが先行している。
- ・ 本来お祭りがもつ楽しさ/高揚感/親しみやすさを十分に伝えきれておらず、日常生活や現代的なライフスタイルとの接点を消失している。

【目的】

- ・ お祭りを特別なイベントに限定せず、日常生活の中に自然に取り入れられる存在へと再定義する。
- ・ 紙袋という身近なアイテムを通じて、「お祭り=ハレの瞬間」を誰もが気軽に体験できる導線をつくる。
- ・ 地域に根付く伝統や文化をアーティスティックに表現することで、関心や親しみを生むきっかけを提供する。
- ・ 地域の魅力を直感的に感じられる、手軽で汎用性の高い商品を開発する。

商品概要

【コンセプト】

お祭りを、365日のときめきに～音を手にとることで～

【商品詳細】

- ・モチーフ：宮島管絃祭/阿賀舟の舟歌+瀬戸内海の音
- ・原色を取り入れた、視認性の高いデザイン
- ・和柄は基本的に使用しない
- ・ギフト、イベント配布用、企業用紙袋として使用
- ・仕様：紙袋（クラフト紙）/3サイズ展開/企業ロゴ規定位置追加可能
- ・ペルソナ：20代後半女性/都内在住/会社員
- ・販路：呉市を中心とした広島県内各地のお土産店・駅など

メッセージ

本事業は、多くの皆様のご協力があったからこそ実現することができました。

関係者の皆様、地域の皆様、学生の皆さんをはじめ、本当にたくさんの方々に支えていただいたことに、心より感謝申し上げます。

私たちは今回、「学生とお祭りの接点をつくる」ことに挑戦しました。

その結果、学生にとっては地域と深く関わる学びと成長の機会となり、地域にとっては新たな活力が生まれるという、双方にとってメリットのある形を具体的に示すことができました。

お祭りは、消費するコンテンツではなく、共に創り上げるものだとは私たちは考えています。

参加する人すべてが「自分事」として関わることで、文化ははじめて次の世代へと受け継がれていきます。

これからも、より多くの人々が日本の文化継承に主体的に関われる仕組みをつくり続けてまいります。

改めまして、ここまで支えてくださったすべての皆様に、心より御礼申し上げます。

本当にありがとうございました。

代表 片桐 萌絵